

Outcomes of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension after Balloon Pulmonary Angioplasty and Pulmonary Endarterectomy

眞崎, 耕平

<https://hdl.handle.net/2324/7363618>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 : © 2024 The Authors.



氏 名： 眞崎 耕平

論文名： Outcomes of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension after Balloon Pulmonary Angioplasty and Pulmonary Endarterectomy

(バルーン肺動脈形成術および 肺動脈内膜摘除術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療成績)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）患者に対する根治治療として肺動脈内膜摘除術（PEA）が確立しているが、近年日本を中心にバルーン肺動脈形成術（BPA）によるカテーテル治療が発展してきた。一方でBPAが普及した国・地域における治療成績に関する大規模研究の報告はない。

本研究は、日本におけるBPAおよびPEAによる治療を受けたCTEPH患者の特性と転帰を明らかにすることを目的とした。日本全国CTEPHレジストリであるCTEPH AC registryに2018～2023年に登録された1,270例のうち、登録時点で再灌流療法歴がない“Treatment-naïve患者(369例)”を、フォローアップ期間中の再灌流療法の内容に基づいてBPA戦略群（n=313）とPEA戦略群（n=56）に分類した。

ベースライン特性として、BPA戦略群はPEA戦略群よりも高齢の患者で選択された（平均年齢±標準偏差，BPA vs PEA：66.5±12.6 歳 vs 62.5±11.8 歳； $P=0.028$ ）。

フォローアップ期間の中央値（四分位：Q1-Q3）は615日（311-997日）であった。主要評価項目であるMorbidity and mortalityイベントに関する複合エンドポイント（全死亡、緊急再灌流療法、非経口肺血管拡張薬の開始、臨床所見の増悪 [6分間歩行距離の15%以上の減少かつWHO機能分類の悪化]）について、BPA戦略群はPEA戦略群と同程度のMorbidity and Mortalityを示した（5年発生率，BPA戦略群 vs PEA戦略群：10.2% [95%信頼区間 5.2%-19.5%] vs 16.1% [95%信頼区間 4.3%-50.6%]）。傾向スコアマッチング後の集団においては、BPA戦略群はPEA戦略群と比較して推定糸球体濾過量の改善が大きかった（変化量間の差，4.9 [95%信頼区間 0.5-9.3] mL/min/1.73m²； $P=0.030$ ）。

以上から、BPAはPEAと比較してより高齢の患者において選択される頻度が高く、有効性についてはPEA同様に良好な結果を示し、さらに腎機能改善という観点においてより有利であると考えられた。